

---

---

## 歯の喪失と口腔機能 - 沖縄セミナーに参加して -

仲 若 三 男

### Tooth loss and oral function

- After attending the seminar of Fukai Institute of Health Science in Okinawa -  
Mitsuo Nakawaka

---

ヘルスサイエンス・ヘルスケア編集長殿

今回の「歯の喪失」を考える（2011年11月20日、深井保健科学研究所特別セミナー in 沖縄）というテーマについてもとても興味がありました。沖縄は欠損が非常に多く私も日々の臨床の中で歯の欠損については常に考えているつもりでした。しかし、私が考えていた歯の欠損とは、咬合支持の視点からだけであったことを知らされた気がしました。歯牙の欠損を防ぐためにはもっといろいろな視点からのアプローチ、配慮が必要であることを改めて勉強させていただきました。

セミナーに参加して、臨床家としての私の感想を述べさせていただくと歯の喪失を考える際に、喪失歯数、現在歯数で考えることはとても重要ですが、まとめの際に話があがっていた、良く噛めているか、左右均等に噛めているか、など機能の面での評価ももっと取り入れてみても良いのではないかと感じました。患者さんにとっては残存歯数よりも、噛めているかどうかが一番の問題であ

り、臨床においては機能の回復を最も重要視すべきではないかと思います。そういう部分を評価する材料として私はこれまで宮地の咬合三角、Cummerの分類、金子の咬合支持指数などを参考にしてきました。これらの分類は視覚的に捉えやすく分かりやすい部分もありますがただ、欠点として顎位の問題（クラスⅡ、Ⅲ）や叢生などの不正咬合を認めるケースではこれらの分類はあまり参考にならない場合があります。

つまり、残存歯数だけでは咀嚼機能の評価や、今後の咬合崩壊の予測が難しいケースがあります。残存歯数に加えて咬合力、力の評価を取り入れる必要があるのではないかと感じます。その上で、咬合崩壊（歯牙喪失）を予測するもっとわかりやすい指標があればそれを食い止める臨床の介入のタイミング、手段がもっと明確になるのではないかと思います。

私は現在沖縄本島北部の離島、伊江島の歯科診療にも関わっております。伊江村（伊江島）は人口約5,000人、小学校2校、中学校1校、高校からは本島の学校に進学します。伊江島は沖縄県の中でもう蝕率が高くその対策としてフッ素洗口を保育園から中学までの子供たちに行っております。導入までにはいろいろな問題もありましたが、久米島を参考に伊江村や学校関係者の協力を得て何とか導入にこぎつけ、5年ほどが経過しました。う蝕罹患についてはかなり改善がみられてきてはいるもののその評価や、モチベーションの維持を

---

#### 【著者連絡先】

〒904-2161 沖縄県沖縄市古謝1139-1  
医療法人なかわか なかわか歯科医院  
理事長 仲若三男  
TEL：098-929-2300 FAX：098-929-2301  
E-mail：mitsuo@nakawaka.jp  
URL：http://nakawaka.jp

これからどうしていくか悩んでいます。

私のグループでは「伊江村を日本一の歯科衛生の王国にする」という、一見ばかげた夢を描いて予防、臨床ともに取り組んでいるところですが、日曜日のセミナーに参加させていただきこの機会に、そちらのほうでも歯科公衆衛生の専門の先生方にアドバイス、ご協力を頂けないかと思いました。はじめは高江洲先生にご協力をお願いしようと思っていました、相談を持ちかけた矢先にあ

あいう状況になりできなくなってしまいました。もしよければ伊江村を先生方の研究の場として考えていただくのも大いに歓迎です。興味をお持ちいただく先生がおられましたらぜひご紹介くださいますようお願いいたします。この度は貴重なセミナーに参加させていただきまして本当にありがとうございました。これを期に今後いろいろと勉強させていただきたいと願っています。